

阿見町の空襲

1945年(昭20)6月10日6:45警戒警報、7:07空襲警報発令
B29約30機が250キロ爆弾、焼夷弾を投下。

土浦海軍航空隊(予科練)が大火災。隊舎など大半を失った。青宿台地の防空壕入口に落下した爆弾によって、壕の中の予科練隊員281名が即死した。その他にも119名の死傷者が出た。(病院収容後26名が死亡)。また当日は日曜日で、遠方から面会に来ていた予科練生の父兄の中にも13名の死傷者が出た。

航空隊周辺の一般民家も多数直撃弾を受けて破壊したり消失し、死傷者をだした。島津小学校は航空隊から4キロも離れているにもかかわらず、直撃弾を受けて全壊した。この空襲で軍人、一般人を併せて400名以上の人命が失われた。

空襲が終わってすぐ、壕の中で即死した隊員の遺骸は、青宿の民家の戸板をはずして運ばれ、適正検査部(現土浦三高)のテニスコートの辺りで火葬に付された。戦後、この死を悼んで「墓碑」が建立され、毎年遺族・同級生らが集まり供養がおこなわれている。

各部落の被害状況

青宿部落 死者13名、負傷者多数、焼失家屋・集会所15戸。

付属家屋・物置納屋 約30棟。

立の越部落 直撃死亡10名、負傷者10数名、直撃家屋6棟。

大破焼失家屋15棟。

☆ 青宿、立の越の爆弾穴跡200ヶ所以上。

島津部落 死者16名、負傷者約15名、直撃全焼家屋4棟。

家屋半壊60棟以上。

島津小学校は直撃弾を受けたが、日曜日のため学童の被害はなかった。

爆弾の穴跡60ヶ所以上。

竹来部落 死者7名、負傷者10数名、全焼全壊家屋10数棟。

殆どの家屋大破。爆弾穴跡96ヶ所。

廻戸部落 死者5名(直撃弾により一家4名死亡)、全壊全焼家屋6棟。

大破家屋多数、爆弾穴跡95ヶ所。第2海軍集会所は全焼。

新町 爆撃を免れた。

☆ 5部落の死者51名、負傷者35名の他多数。

阿見町には土浦海軍航空隊(予科練)、霞ヶ浦海軍航空隊、海軍航空廠、海軍軍需部、海軍病院、気象学校、民間の中島飛行機製作所があった。

戦後、霞ヶ浦海軍航空隊跡に霞ヶ浦農科大学が1949年(昭24年)県に移管し、1952年茨城大学農学部になった。現私立霞ヶ浦高校は農科大学の付属農学校として発足した。土浦海軍航空隊跡は大部分農耕地として解放され、後に日本体育大学が移転してきた。しかし、日体大は3、4年で東京に帰り、1953年(昭28年)陸上自衛隊武器学校が開設された。海軍航空廠跡は武器学校補給廠に、飛行艇格納庫跡が防衛庁技術研究所土浦試験場になった。